

第10回日展

第4科（工芸美術） 特選授賞理由

題名 水・土・命 5
作者名 石上久美子

授賞理由

大地に水が流れ、生命が誕生し育まれていく。その様な地球の神秘的な命の循環を思い、一種哲学的心象風景へと昇華した作品で、幾何学的要素で削ぎ落とされたモダンな画面構成へと仕上げた秀作である。

風に乗って 石黒美男

授賞理由

上昇気流に乗る二匹のモモンガ親子をモチーフに、鍛金技法を駆使して造形した秀作である。銅板を素材にあらゆる仕上げの方法で豊かな表現となった。小動物の躍動する姿に愛らしさを感じる作品である。

紆濤 井上英基

授賞理由

天に向かって30kgの土塊を一本引きで成形。ロクロの回転の緩急による高い技術力を評価した。穏やかな海の「静」と荒々しい波の「動」が独自のロクロ成形と釉薬で表現され、バランスの取れた秀作である。

円舞 岩淵浩之

授賞理由

木漏れ日の中を舞うセキレイのイメージが、金の輪で美しく表現された秀作である。背景を彩る夜光貝の螺鈿、鳥を表現する卵殻、金蒔絵など多くの漆芸技法が巧みに駆使されており、漆の美しさが堪能できる。

深層の情景 織田定男

授賞理由

圧倒的な漆の技術を駆使し、色漆のグラデーションと、凹凸の金箔で構成された形体は、ダイナミックで神秘的な深い海の見事な表現である。その中にグリーンの螺鈿を配した水平ラインは、静寂さえも感じさせる秀作である。

題名 宙
作者名 加藤丈尋

授賞理由

作者独特の技法の面相筆で、一本一本銀彩を施し、濃淡で幻想的效果を出している。上部にウェーブをつけ横面に段をつくり、装飾と形体で作品に躍動感を醸し出している。

silhouette 上端伸也

授賞理由

陶土の素地と絵付による立体表現である。伝統的な絵付の手法であるが、独特の感性による空間構成と素地の面の違いにより生じる形によって、幻想的な世界を表現している。

大地のうた 谷口信夫

授賞理由

木目の美しい樫から彫り出されたダイナミックなフォルムは、大地を象徴するかのような生命感を宿した箱として人々を魅了してくれる。また、自然を敬愛する作者の優しい人柄が滲み出た秀作である。

上弦の月 野村裕皓

授賞理由

シンプル・イズ・ベストという言葉がよく似合う作品である。3mm厚のステンレスの硬い板を曲げたり捻じったりして造形した。鏡面部分も美しい仕上がりで、非常に高い技術力を感じる。上弦の月へのロマンを表現。

KEEP OUT 平林芳子

授賞理由

現代社会の一隅をテーマとして衰退してゆく建物と柵で隔てられた空地に逞しく生き活きと繁茂するノグシが好対照で、活力を感じる明るさが印象的である。友禅染の技術にも長年にわたる修練が見られる秀作である。